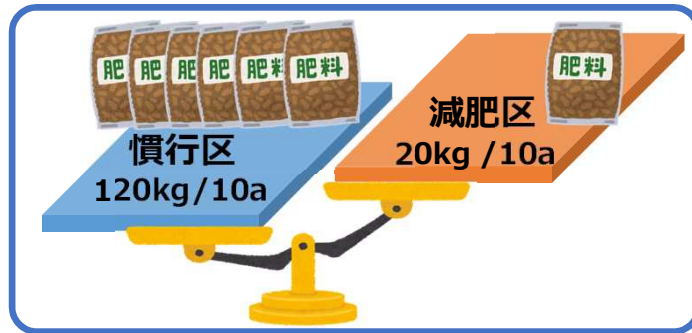


# 基肥減肥はブロッコリー花蕾腐敗病を抑える

生産環境部門 西村文宏 中西 充

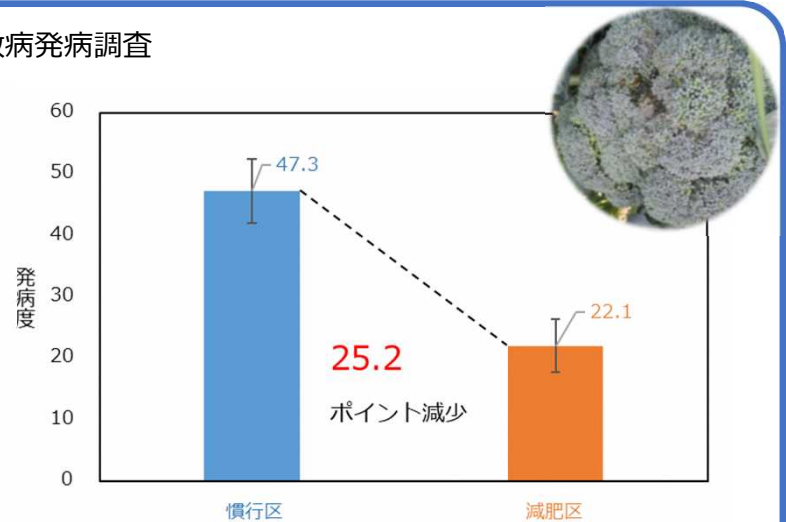
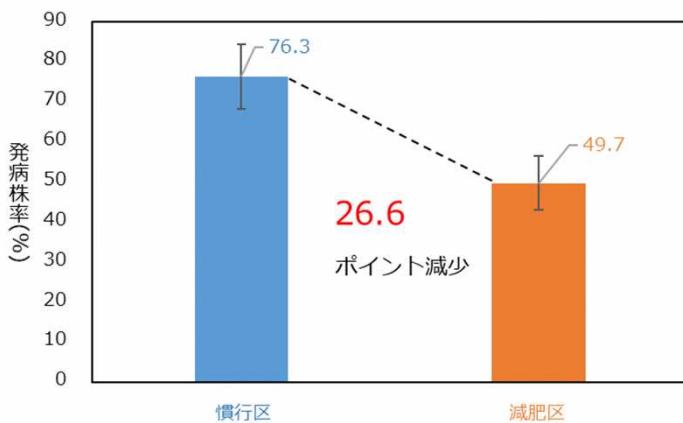
## 1 はじめに

ブロッコリー花蕾腐敗病は数種類の細菌が花蕾を侵す病気です。主な防除対策は抗生物質や銅剤の散布ですが、SDGsによる持続型農業の考えに基づいた耕種の防除方法が求められています。夏作主体の北海道では基肥減肥を行うことで花蕾腐敗病が抑制される報告(中村, 2011)があります。これは、窒素施肥量を削減することで花蕾のカルシウム濃度が相対的に高まるためと考えられています。一般的にカルシウムは細胞壁の強度を向上し、病原細菌の分泌する細胞壁分解酵素活性阻害などに寄与するとされています。そこで、冬作主体の本県での適応性について検討を行いました。



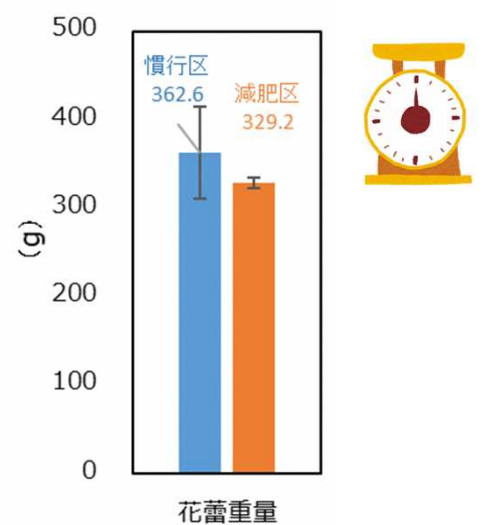
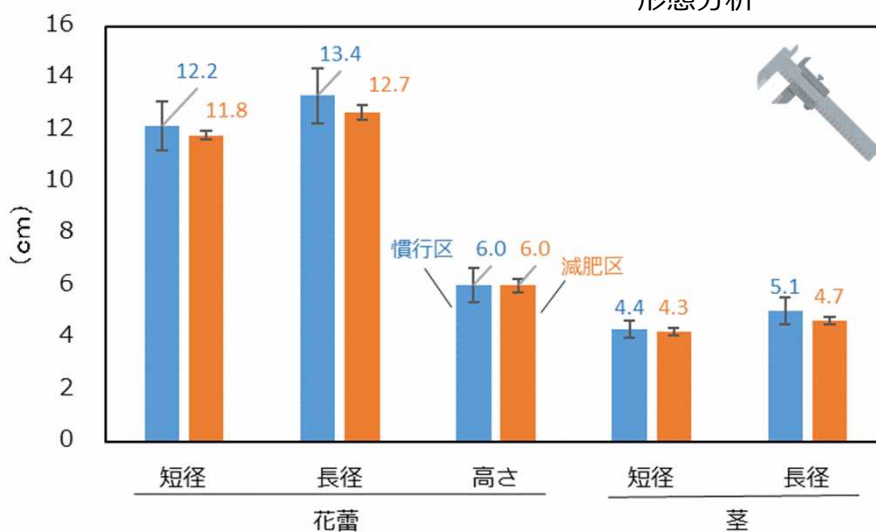
## 2 結果

### 花蕾腐敗病発病調査



基肥減肥を行うことで、花蕾腐敗病の発生を抑制しました。

### 形態分析



いずれの項目においても、両区間で差異を認めなかった。

## 3 おわりに

施肥量の違いにより花蕾腐敗病の発生量に差が認められました。冬作主体の本県においても土壌診断による適切な施肥設計を行うことで、施肥コストおよび病害による収量ロス削減が期待されます。